



# ようこそ！ もの忘れ外来へ

## 高齢者がボーッとする原因 その1 高齢者のてんかん

てんかんは子供の頃に発症することが多い病気と思われがちです。しかしながら、図1のように高齢になって発症することが多くなることわかってきました。高齢者のてんかん発作の特徴は、静かで地味な発作です。子どものてんかん発作で多く認められる、「激しいケイレン」や「泡を吹いて卒倒する」といったわかりやすい症状がないのです。意識の混濁や消失が多く、いわゆるボーッととしていて、その間におかしな行動をすることから認知症と間違われることも少なくありません。

朝霧台中央病院の久保田先生は「高齢者てんかん」という本の中で、認知症と間違われやすい高齢者てんかんの症状を見極めるためのチェックポイントを10点あげています(図2)。高齢者てんかんの有病率は65歳以上の約2%と報告されています。50人以上が生活する老人介護施設なら、1人は発症している可能性があります。

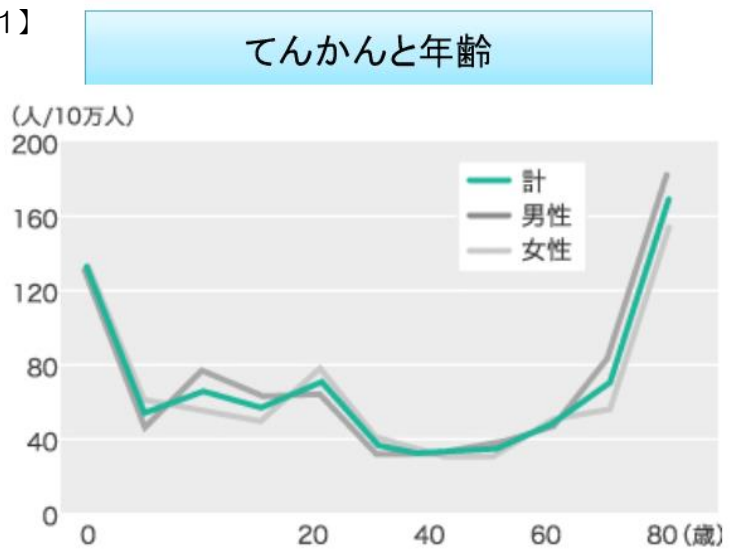
高齢者てんかんが発見されにくい要因は、発作の型がおとなしいということだけでなく、頭部CTやMRIなどでも特徴的な所見に欠け、脳波上も異常が出にくいということにあります。ですから診断する上では家族の「どこかおかしい、何かおかしい」という感覚が大事になってきます。

高齢者てんかんは適切な服薬でコントロールができる病気です。副作用の少ない新しい抗てんかん薬が使用されて、確実な効果が出ています。こうした高齢者のてんかんが認知症と間違われて診断され、症状が悪化することも指摘されるようになってきました。注意したいのは、はじめから認知症と高齢者てんかんが併存する場合や、認知症の進行によっててんかんを発症する場合もあることです。このような場合も抗てんかん薬が症状を改善してくれます。

時々「ボーッとすること」があって、その時に特徴的な動きや行動を伴う場合には「高齢者てんかん」を疑う必要があります。



【図1】



(出典：日本神経治療学会治療指針作成委員会編集「標準的神経治療：高齢発症てんかん」463ページ、Fig.1「年齢別てんかん発症数」)

【図2】

### こんな症状の時は「認知症」ではなく、「高齢者てんかん」を疑ってみる

1. ふだんは何の支障もなく、日常の生活をこなしている
2. 突然、動作がピタリと止まり、声をかけても反応しないことがある
3. 無自覚に口元をくちやくちやく動かす、身体をゆする、腕を動かすなどの動きがある
4. 意識を失っても、倒れない
5. 数十秒か数分たつと、何事もなかったように動き始める
6. 意識がなかった間のことは何も覚えていない
7. 意識が戻っても数分から数時間は、ぼうっとしている
8. 怒りっぽくなり、意味もなく声を荒げることがある
9. 状態の良い時と悪い時がはっきりしている
10. 目の焦点があっていない

(久保田有一著、「高齢者てんかん」より、一部改変)

## ドクター岡原の今月のひとこと！



高齢者の自動車運転についての問い合わせが増えていきます。運転免許の更新時に認知機能検査を受け、不合格になって公安委員会からの診断書を持参される方もいます。それ以外にも、家族が本人の運転の危険性に気づいて心配になり、運転を中止してくれるように説得を頼まれる場合もあります。今回紹介した高齢者てんかんも、自動車運転の際に事故を起こしやすい病態の1つといえます。現在当院のもの忘れ外来では、「高齢者てんかん」を見逃さないために、初診時にはその問診票をつけております。